第３学年１組　道徳科学習指導案

１　主題名　できなかった親切〔内容項目B－（６）：親切、思いやり〕

　　＜教材名　「おじいさんの顔」＞出典：「３年生のどうとく」文渓堂

２　ねらいとする価値について

　　　児童は、友達同士の交流が活発になるとともに、様々な人々とのかかわりがふえていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになってきている。他人を思いやり親切にするには、相手のおかれている状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを自分のこととして想像する必要がある。自分の立場や気持ちを優先するのではなく、相手のことを考え、進んで親切な行動を行おうとする意欲や態度を育みたい。

３　子供の姿

本学級の児童は、周りをよく見ている児童が多く、帰りの会の中で、よい行いをした児童を紹介する「きらきらさん発表」では、多くの児童が発言している。また、たくさんの配付物や給食配膳後の片付けなど、自分の係でなくても、学級のために快く手伝いができる。自分の状況や気持ちにかかわらず、周りの人に対する思いやりの心をもち、主体的に動くことのできる児童をさらに増やしていきたい。

|  |
| --- |
| 家庭や地域と連携した教科学習計画 |
| 月 | 教科 | 内　容 |
| ６７９101112１２ | 道徳総合国語総合道徳道徳道徳道徳総合総合道徳総合 | 「百六さいおめでとう、ひいおばあちゃん」C（１４）家族愛地域の宅老所との出会い「パラリンピックが目指すもの」宅老所との交流①「みんながくらしやすい町」B（６）親切、思いやり「くらしの中のユニバーサルデザイン」B（６）親切、思いやり「おじいさんの顔」B（６）親切・思いやり「とくジーのおまじない」B（７）感謝宅老所との交流②福祉実践教室「ありがとうの気持ちをこめて」 B（７）感謝宅老所との交流③ |

４　教材と指導について

　　　本資料の「ぼく」は、夏の暑い日にホームで電車を待っている。初めは席が空いていなかったが、３つ目の駅でようやく座ることができる。やっと座れた「ぼく」の気持ちを共感的に捉えることができるだろう。その後、大きな荷物をもったおじいさんが「ぼく」の前に立ち、ハンカチで汗を拭きながら、時々大きなため息をついている。「ぼく」は自分が譲ろうか迷いながらも、結局、隣の若い男の人が、おじいさんに席を譲る。席を譲ることは親切なことであると理解しているものの、譲ることができなかった「ぼく」の心の葛藤にふれ、親切のあり方について考えることで、これからの自分の生活に生かせるようにしていきたい。

―５２―

―５２―

―５２―

５　地域と連携した学習

本校区には、すぐ近くに託老所があり、一年間を通

して高齢者との交流を行う。年齢や自分たちと立場が

違う方々に対して、どのような接し方をしたらよいか

を考えながら交流会の計画を進めていく。本時では親

切や思いやりについて改めて考えることで、周りの人

の状況や気持ちを思いやって生活しようとすること

について考えられるようにする。

６　本時の学習

(１)本時のねらい

登場人物の行動と気持ちに目を向け、「ぼく」の心の変化を捉えることで、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする気持ちを高める。

(２)本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 児童の活動 | 〇伝え合うための工夫・その他の手立てや留意点　 |
| つかむ（５） | １　宅老所との交流会で、気を付けたことを発表する。・しっかり声が聞きとれるように、ゆっくり話したよ。・自己紹介では、大きな声で名前を言ったよ。２　本時のめあてをつかむ。 | ○「相手を思いやる」ということを、自分の経験として想起させるために、実際に交流した時のことを発表させる。　　　　　　　　（導入の工夫）思いやりの心について考えよう |
| 深める（35） | ３「おじいさんの顔」（P47の５行目まで、P48の６行目まで）を読んで、話し合う。ようやくすわることができたときの「ぼく」はどんな気持ちでしょう。・暑かったな。疲れたよ。・やっとすわれてよかった。ため息をつきながら立っているおじいさんを見ている時の「ぼく」心の中はどんなかな。・おじいさん大変そう。席を譲らなきゃ。・勇気を出して、声をかけようかな。でも恥ずかしい。・おじいさん疲れてるかな。でもぼくも座ったばかりだからもっと座っていたいな。４　続きを読んで、話し合う。にこにこしているおじいさんを見た「ぼく」は、どんなことを考えたでしょう。・男の人は、すごいな。自分から声かけていて、えらい。・おじいさん、席を譲ってもらって嬉しそうでよかった。・ぼくが譲ればよかったな。・おじいさんのこと考えられなくて、恥ずかしいな。・声をかけられなくて、だめな自分だなあ。・おじいさんに席を譲った方がいいとは思っていたけど、ぼくももっと座っていたいと思った。 | ・すわることができたときの「ぼく」の気持ちを共感的に捉えさせるために、センテンスカードを用意してあらすじを確認する。「太陽がかんかん」「さっと乗った」「やっとすわれた」などの様子をおさえる。・おじいさんの状況への理解を深めるために、「大きなふろしき」「あせびっしょり」など、場面の様子を再現する。・「ぼく」の葛藤する気持ちを視覚的にも捉えられるようにするために、おじいさんに対する気持ちと自分の気持ちを並べて板書する。・おじいさんが笑顔になっている場面絵をのせたワークシートを配付し、吹き出しに自分の考えを書くようにする。〇「ぼく」が自分を責める意見が多く出てきたところで、さらに深く考えられるように、「『ぼく』だって疲れてて、やっと座れたんじゃないの。」と補助発問をする。（話し合いを深める工夫） |
| 振り返る（５） | ６　 授業の振り返りをする。・親切な行動をするには、勇気も必要だということが分かりました。・自分のことだけじゃなく、相手の気持ちを考えて行動にうつせるようになりたいです。・自分の気持ちをつい優先してしまうけれど、そういう気持ちに負けずに、相手のことを大切にしていけるようになりたいです。 | ○相手を「思いやる」ということについて、友達の意見や授業の内容から思ったことや考えたことを書く。（振り返りの視点） |